

ハロウィンの仮面より不気味なものがここにある

John G. West (<https://evolutionnews.org/author/jwest/>)

October 30, 2019



ユーチューブのヒット・シリーズ「科学の蜂起」Science Uprising には、主催者が不気味な、ハロウィンにふさわしい仮面（アノニマスの仮面を加工した）をかぶって現れる。明らかにこの仮面は少し不気味である。しかしもっと不気味なものがある——それは、唯物論というものの非人間化された世界観で、この仮面はそれを象徴している。

(<https://evolutionnews.org/2019/06/whats-up-with-the-science-uprising-mask/>)

これは科学からわかることだなどと、偽りの主張をして、唯物論は、人間を動物より少しましなだけの生物だと言う。それは、人間が自由意志を持つことを否定する。それは、神や霊的なものの可能性を否定する。そしてそれを支持する者たちは、しばしば、反対意見の人々を罰し、彼らが検閲されないように、ブラックリストに載らないように、また差別されないように、自分の本当の見解を仮面の下に隠すように強制する。

もっと恐ろしいことは、今日の多くの若者が、唯物論に対する理を尽くした反対意見を、聞く機会を奪われるという不気味な現実である。

この問題にどう賢明に取り組むか

Science Uprising は、この問題に効率よく取り組むように考案されている。非営利の「ディスカバリー研究所」(<https://www.discovery.org/id/>)によって立ち上げられたこのシリーズは、宇宙の起源、生命の起源、それに我々の心（精神）の現実について、唯物論の主張することに挑戦している。このシリーズの特徴は、早く学べる最高の達成価値である。それは、放送の若いプロフェッショナルのチームと、有線テレビ産業によって製作された。

Science Uprising は途方もない人気を博していて、これまでのところ、ユーチューブとフェイスブックで、120 万以上の視聴者を引き付けている。

あなたには、さらに何百万という数に達するように、協力していただけないだろうか？我々は Science Uprising のインパクトを、2020 年の秋には、デビューの第 2 期を成功させて、増大させようと願っている。しかし 1 つひとつのエピソードを書き、製作し、興行することは、2 万 5 千から 5 万ドルの費用がかかる。我々は政策に取りかかる前に、こうした費用を募らなければならない。あなたは、もし財政援助をしていただけるなら、第 2 期のプロデューサーの一人になっていただくことができる。ここをご覧いただきたい。

<http://www.scienceuprising.com/donate>

「私はもう黙っていないつもりだ」

ここに、我々が第 1 期の視聴者からいただいた、コメントのいくつかがある：——

- ・「これらは**火事だ**！ こういうものを作ってもらって感謝する」
- ・「このビデオは私に息を吹き込んだ… まるでほとんど映画の予告編のようだ」
- ・「これらのビデオがとても気に入った」
- ・「こうしたものを、もっと作ってほしい」
- ・「私はもう黙ってはいないつもりだ」
- ・「どうか、私の大学の教授たちに見てほしい！」
- ・「これは、この問題について私が見つけた最上のものだ。これは、すべての討論、すべての会議の内容を細かく要約している。

https://www.youtube.com/watch?v=Ymjlrw6GmKU&t=7m14s%22%20%5Ct%20%22_blank

私はこれを誰とでも共有することができる。彼らは誰でもこれを理解できるだろう！」

百万の人々に影響を与えるような機会は、めったにあるものではない。これはそのような特別な時の 1 つである。もしあなたが、我々の文化にかかった唯物主義の羽交い絞めを、憂慮しておられるなら、そしてその解決の一部になりたいと思われるなら、Science Uprising の第 2 期を、我々と共に演出していただきたい。ご寄付をお願いしたい。あなた

の助けなしには第2期を演出することはできない。

<http://www.scienceuprising.com/donate>

Greatchain より:

「〈科学の反乱シリーズ〉を評価する」
<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/190704.pdf> や、数日前のスティーヴン・マイヤー講義を合わせ読んでいただきたい。ID (Intelligent Design) 普及運動が、戦術を変えることによって、飛躍的に急激に伸びたという報告は、十数年前の発足時から、これをわが国に紹介してきた私にとっては、うれしい話題である。なるほどこれは、彼らも最近まで考え付かなかった方法だったと思われる。ダーウィニズムの克服と、それに代わる仮説の提唱というというとき、相手は同じ科学者なのだから、きちんと科学的に説明すれば、理屈は通るはずだと彼らは考えていた。しかし、そうはいかなかったことは、前の記事で説明した通りである。学者たちの狡猾で臆病で、かつ敵意をもつ石頭には見切りをつけて、無知かもしれないが、偏見も、しがらみもない、若い人々を直接相手にすれば、目的は達せられるかもしれないと彼らは気づいた。そこで普通は学者の考え付かない、「演出」や「興行」の戦術を使って、見事に成功した。「真理は真理自体の力によって広がり定着していく」というような考え方は、時と場合によることが、今度の場合に明らかになった。相手がほとんど暴力を用いる場合には、それ相応の戦略がなければならない。純粋な科学の問題であろうと、「宣伝」——巧妙な宣伝——を用いるべき時がある。これに対してダーウィン側は、逆宣伝をするかもしれないが、それは失敗するだろう。今度こそ、彼らはその術(すべ)は全く失ったはずである。それだけではない。「愚民政策」というものが、どのようなものであるか、なぜ、そこまで彼らは執拗なのか、背後に何があるのか、今度こそは一般に知れ渡ったはずである。

視聴者が現在、120万人を超え、これが更に増加する勢いにあるとすれば、確実に国民の世論を動かすことになるだろう。これに対してわが国では、宣伝の手段をもつ人々が、明らかに唯物論教育、進化論教育を行っているが、これがどれくらい、国民の**知的かつ道徳的水準を低下させる**ものであるかを、やがて我々は思い知るであろう。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/190928.pdf>

「アノニマス」の用いるガイフォークスの面が、サルの鼻になったよう、冒頭の仮面は、人間とサルを区別しないダーウィニズムを象徴するものであるらしい。つまり、体制側が、これをかぶることを若者に強制し、唯物論を少しでも批判する者の話を聞いた者は、処罰されるということである。その被害者には、高校以下の教師が最も多いという歴史を私は知っている。大学の教授も同じだが、比較的少ないのは、教授会というものの権威があるからだろう。このことは、性転換した子供の「彼」「彼女」をうっかり間違えただけで、解

雇される教師や医師が、アメリカでは異常に多いという狂気の現状に通ずる。ウソだろうと思う方は、NeonNettleなどで調べてごらんになるとよい。

要するに、サル人間の仮面の象徴するものは、「神とか霊的なものの可能性」を信ずる者は、頭がおかしいのだとして精神病院に閉じ込めた、かつての共産主義国家の再来である。アメリカは、共産主義国家という恐ろしい、不気味なものになりつつある。この者たちは内戦をも辞さないだろう。

この狂ったアメリカの真似はやめようではないか。我々はアメリカのように発狂はしていない。しかし、さりげなく真似ることによって、それが当たり前の真理であるかのように思わせるのは、最もたちが悪い。我々は鈍感であってはならない。気を付けようではないか。

——以上